

二人はそれから、しばらくテクテク歩いていきますと、こんどは向こうから、まるでぼうのようにやせた、ひよろ長い男が出て来ました。王子は、「おや、へんなやつが来たぞ。」と思いながら、そばへ行って、「もしもし、おまえさんはどこまでいくのです。」と、聞きました。

「わたしは、世界中を歩くのです。」と、そのぼうが元気に言いました。「一体おまえさんは何の商売です。」と王子は聞きました。「わたしには商売はありません。ただ人の出来ないこ

とが、たった一つ出来るだけで
ございます。わたしの名前はナ
ガナガと申します。わたしがチ
ヨイとこうつま先立ちをします
と、すうっと天まで手がとどき
ます。それからひと足で一里先
までまたげます。このとおりで
す。」ぼうはこう言うが早いか
たちまちスルスルと体をのばし
て、おやっという間に、もう高
い高い雲の中へ頭をつっこんで
しまいました。そしてヒヨイと
五、六歩、歩いたと思いますと
もう五、六里向こうへとんでい
ました。それから、またヒヨイ